

あいち・なごや介護ロボットフォーラム2018

ケアサポートソリューションによる 介護ロボットを活用した介護技術開発支援モデル事業

コニカミノルタQOLソリューションズ株式会社

1. イントロダクション
2. CSSの概要
3. CSS導入効果

CSS: ケアサポートソリューション

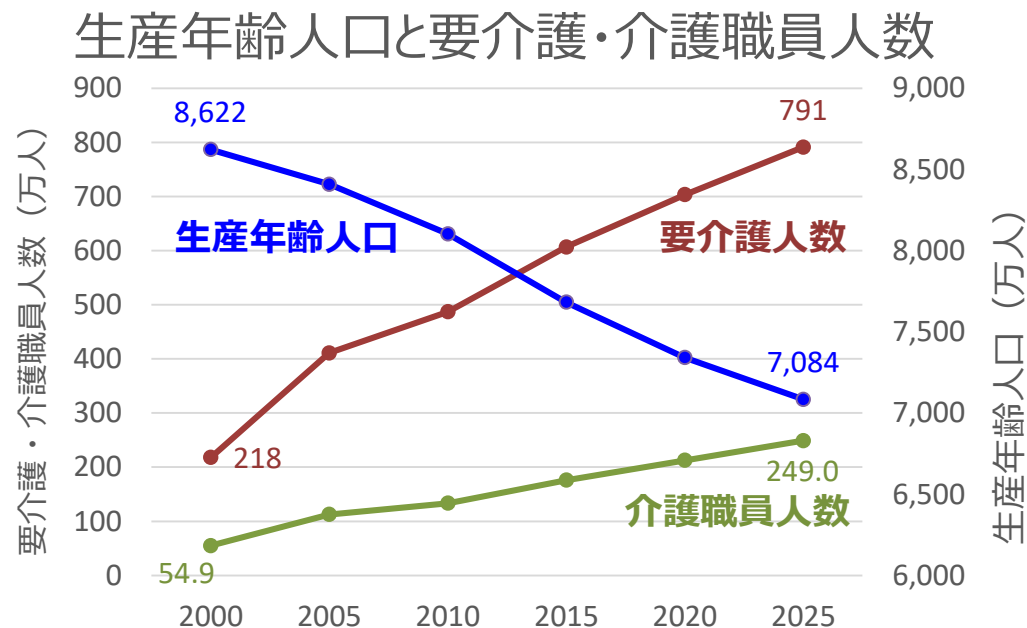
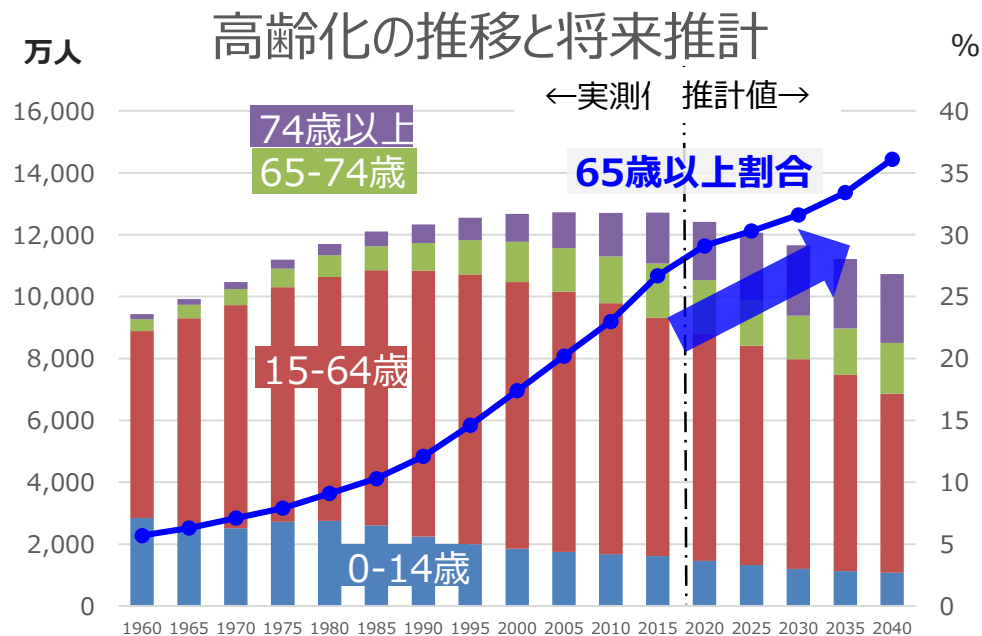


1. イントロダクション

超高齢化社会における社会課題と動向



KONICA MINOLTA



【介護報酬改定】

介護度改善、業務効率化実施事業者に
報酬を手厚くする方針

介護現場にもイノベーションが必要

- ✓ 「見守りセンサー」導入の特養に介護報酬加算へ（'17.11.30朝日新聞）
- ✓ 介護報酬改定で自立支援の報酬加算（'17.12.6NHK NEWS）
- ✓ 医療・介護、効率化に報酬手厚く 18年度改定方針（'17.12.6日経新聞）

【介護職員不足】

要介護認定者数の増加に伴い、
2025年には介護職員が249万人必要

生産年齢人口が減少するため
介護職員の確保が困難



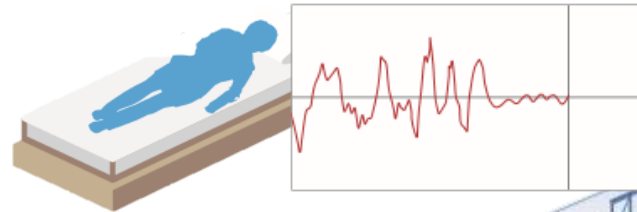
2. ケアサポートソリューションの概要

天井設置の近赤外線カメラとドップラセンサにより、入居者様の行動を認識し、スマートフォンにお知らせ
介護記録連携を含め、介護士のワークフローをトータルにサポート

01 状況を「見て行動」



02 胸の微小な動きを認識して「安否確認」



03 転倒・転落時の「エビデンス」



04 その場で「ケア記録作成」



05 即時・確実な「情報共有」



06 入居者様の自立を促す「お声がけ」



CSSによるワークフロー変革と効果

6つの特徴を活かしてスタッフ様の負担を軽減するとともに、業務効率化を実現します

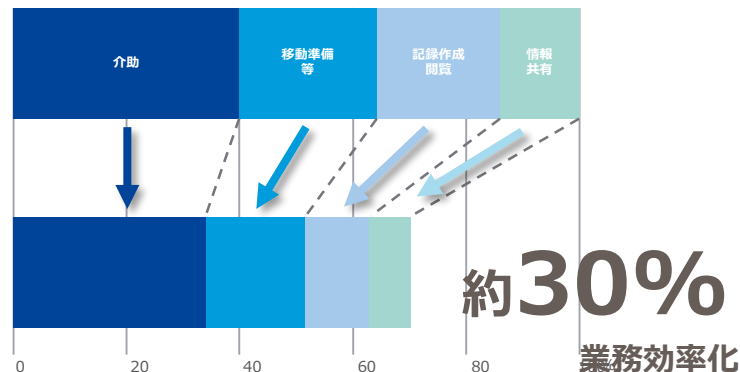
ケアサポートソリューションの特徴

-  状況を「見て行動」
-  胸の微小な動きを認識して「安否確認」
-  転倒転落時の「エビデンス」
-  その場で「ケア記録作成」
-  即時・確実な「情報共有」
-  入居者様の自立を促す「お声がけ」

ワークフローの変革

- 訪室のフロー
- 夜間巡視のフロー
- 転倒転落対処フロー
- 記録入力のフロー
- 情報共有のフロー
- 自立支援のフロー

業務効率化



導入の効果

入居者様の満足度向上



- ・ケア品質の向上
- ・介護時間の増加
- ・安心安全ケアの実現 etc.

スタッフ様の満足度向上



- ・残業時間の削減
- ・休憩時間の確保
- ・身体/精神的負担軽減
- ・キャリアアップ研修 etc.

経営者様の満足度向上



- ・他施設との差別化
- ・離職率の低減 etc.

施設経営の安定化



3. ケアサポートソリューション導入効果

導入施設

- ・グループホーム（9床/フロア×2フロア=18床）
- ・夜間の人員配置は1フロアに1名
- ・夜勤業務の負荷が日中に比べ大きい

導入施設の夜勤業務

- ・昼夜逆転や徘徊等を有する認知症入居者様のため**行動把握が難しい**
- ・入居者を転倒させまいと介護スタッフ様は**居室内での物音や退室時の扉の音などを頼る**
- ・**自発的にかけつけや見守り、介助等を実施している**

CSS導入効果① 夜勤業務の効率化

居室入居者様の行動起点による映像通知からの**見てかけつけにより**
介護スタッフ様の**自発的行動の機会削減**につながり結果的に**介助時間が削減**

CSS導入効果② 夜勤における介護品質向上

業務に余裕が生まれ準備や片付けなど**介護品質向上に向けた時間が増加**

効率的な訪室の実現

導入前

入居者の予測できない行動に対応するため訪室業務が多い

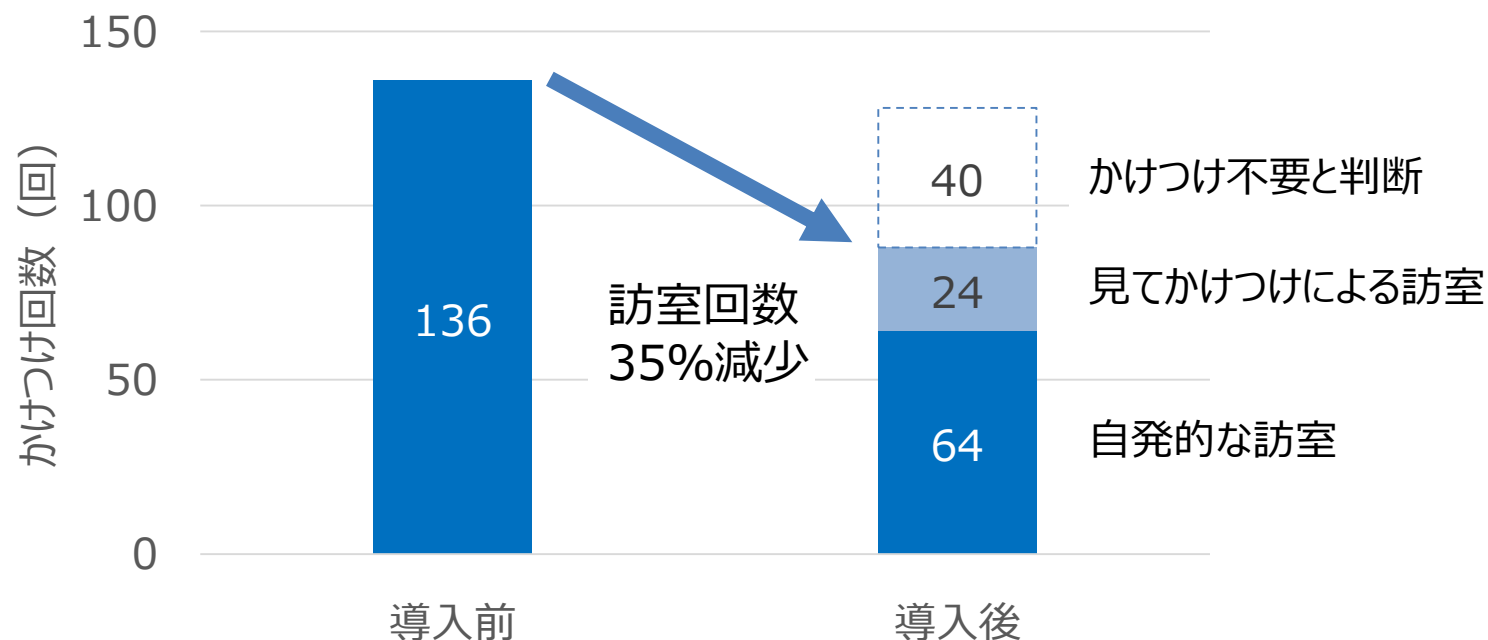
導入後

入居者の起床離床時の映像通知を確認

効果

訪室回数が**35%減少**

システム導入前後での夜間の訪室回数



労働生産性の向上

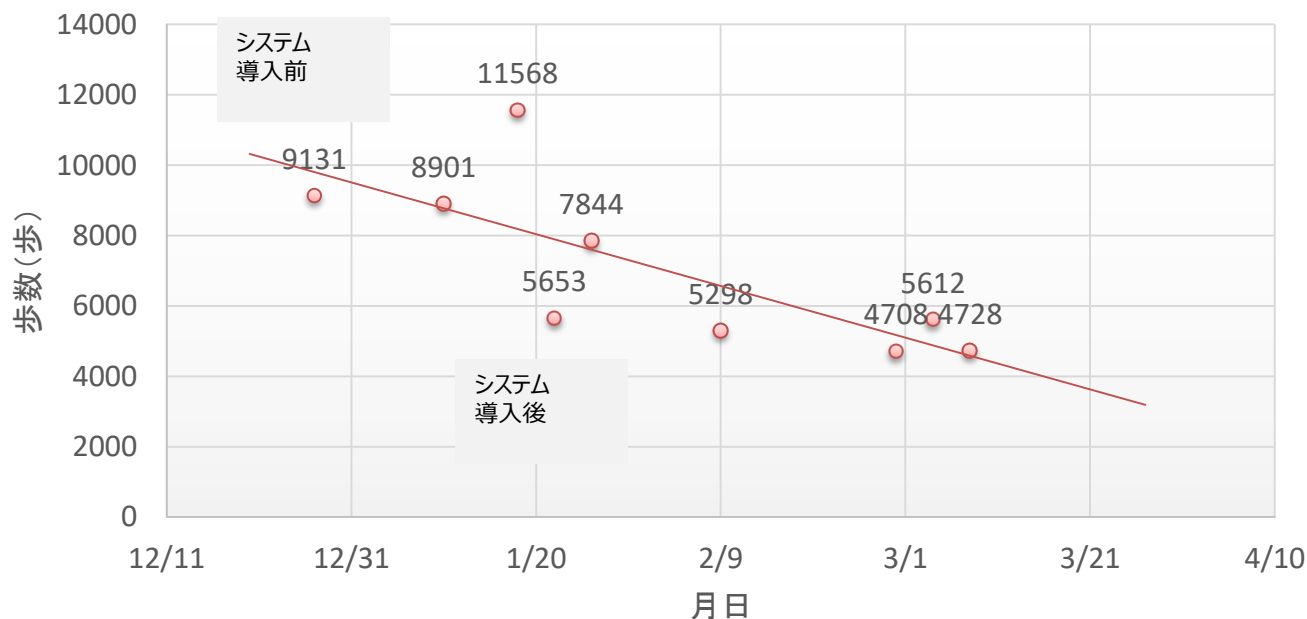
システム導入前後での介護スタッフの歩数を測定。システム導入以降、介護スタッフの歩数がシステム稼働時間の経過と共に減少

導入前
9,131歩/夜勤

導入後
4,728歩/夜勤

効果
歩数が**48%減少**

1F夜勤スタッフの歩数変化



危機管理や介護品質の向上

導入前

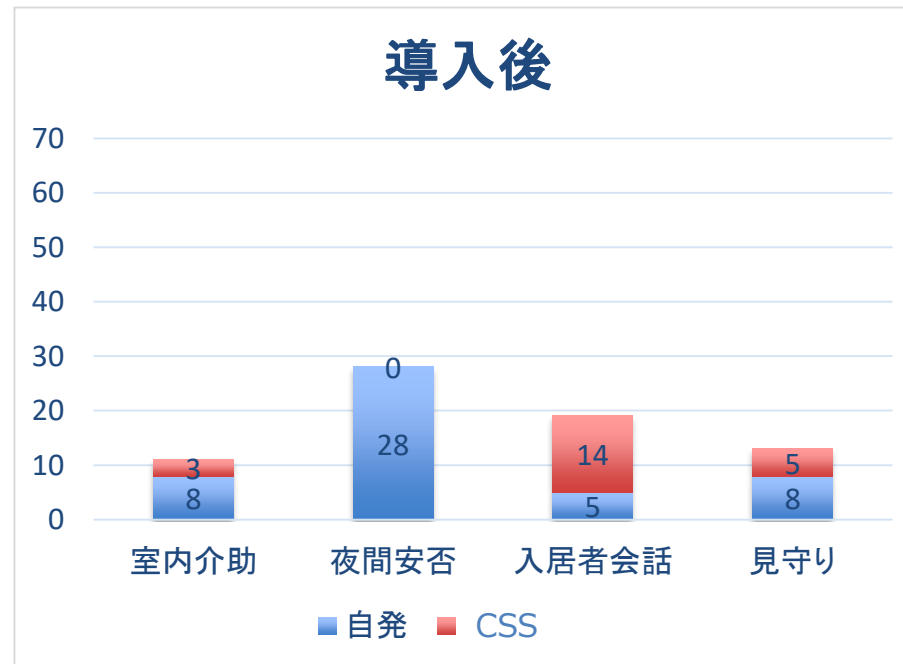
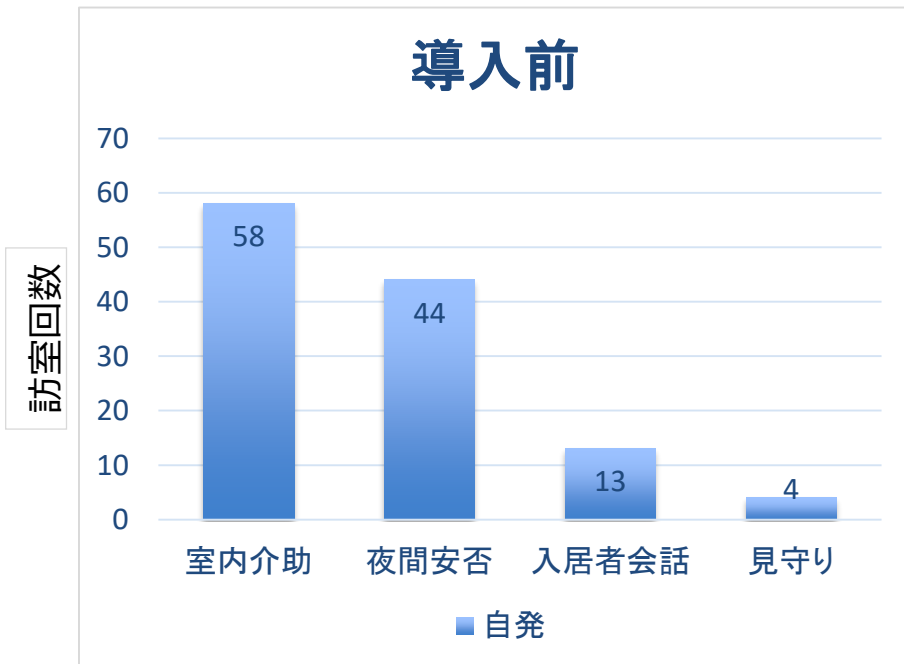
介護スタッフが自発的に室内介助や安否確認を実施。

導入後

入居者の起床離床時の映像通知を確認し訪室

効果

見てかけつけにより必要なかけつけとなり
訪室時に入居者会話、見守り行為が増加



精神的余裕の創出

導入前

夜間は入居者が発する物音を頼りに行動するため**精神的負荷が大きい**

導入後

起床離床時の映像通知確認。
見て駆けつけ

効果

入居者対応中でも映像通知確認により別室状況が即座に把握。対応の**優先順位がつけられ余裕が持てるようになった。**

事故への対応・対策

導入前

認知症のため転倒時の**状況ヒアリングが不確実**となり適切なケアができない

導入後

記録映像による事実確認

効果

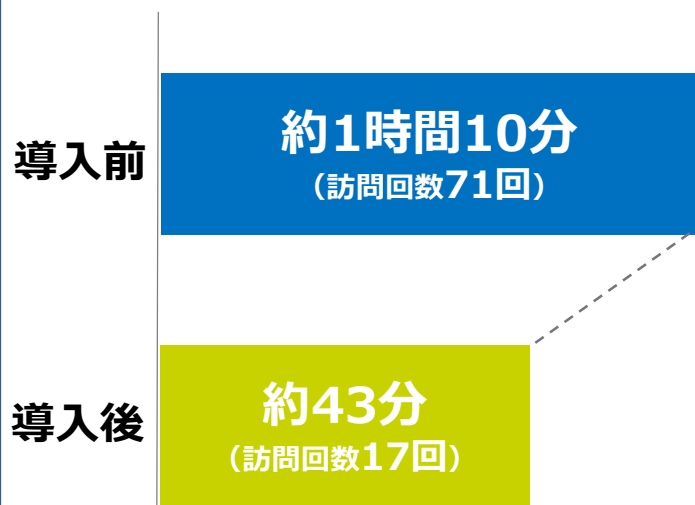
事故後の検証が**事実に基づき実施**でき対策をしっかりと打つことができた

ケア品質の向上

- ①CSS導入で「準備して駆付けることによる介助の効率化」、「誤報による無駄な駆付け介助の削減」により全体の介助時間が短縮
 - ・ 短縮されたことにより生まれた時間を介助時間にあてることで、**1回あたりの介助時間が増加**。
 - ・ 入居者様の欲求に先回りした手厚い介護が可能に。
- ②**先回り対応とゆとりが生む丁寧な介助**によって、ナースコールの回数も減少。

①介助時間増加⇒ケア品質向上

<駆付けによる介助時間の合計>



駆付け介助回数**76%減**

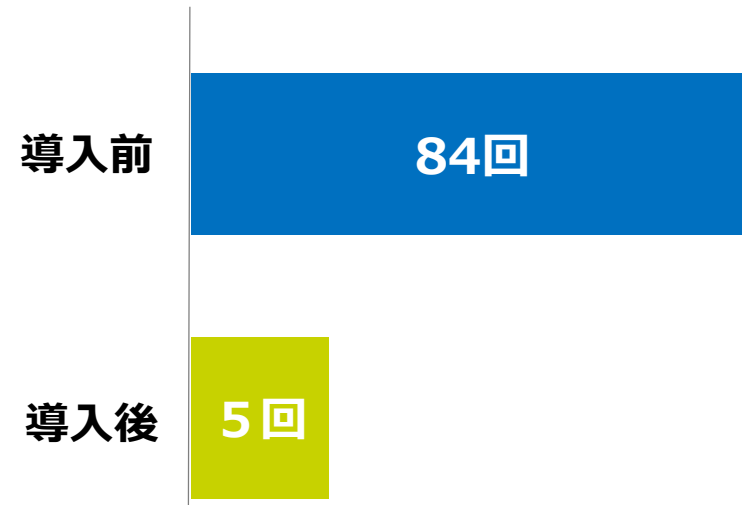
<1回あたりの介助時間>



1回の介助時間**2.6倍**

②ナースコールの減少

<ナースコールの回数>



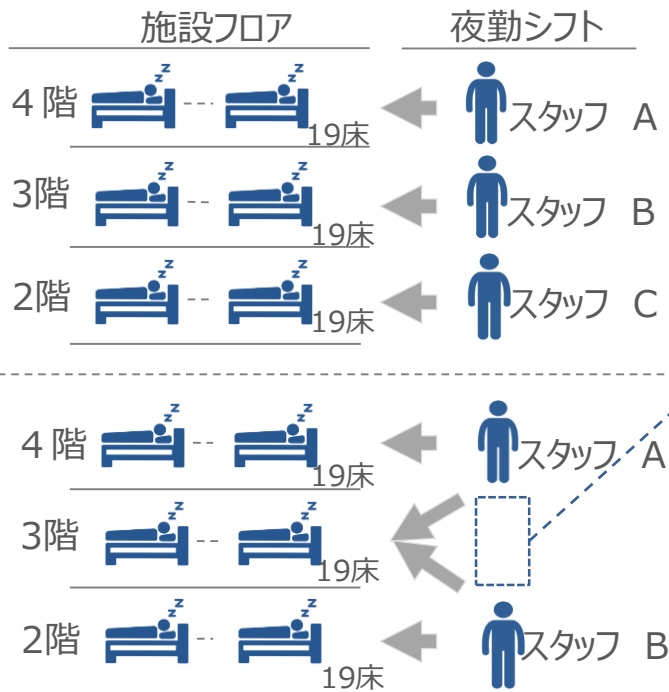
【施設概要】・入居者定員数：36名 ・フロア数：1フロア

導入効果 生産性向上の効果

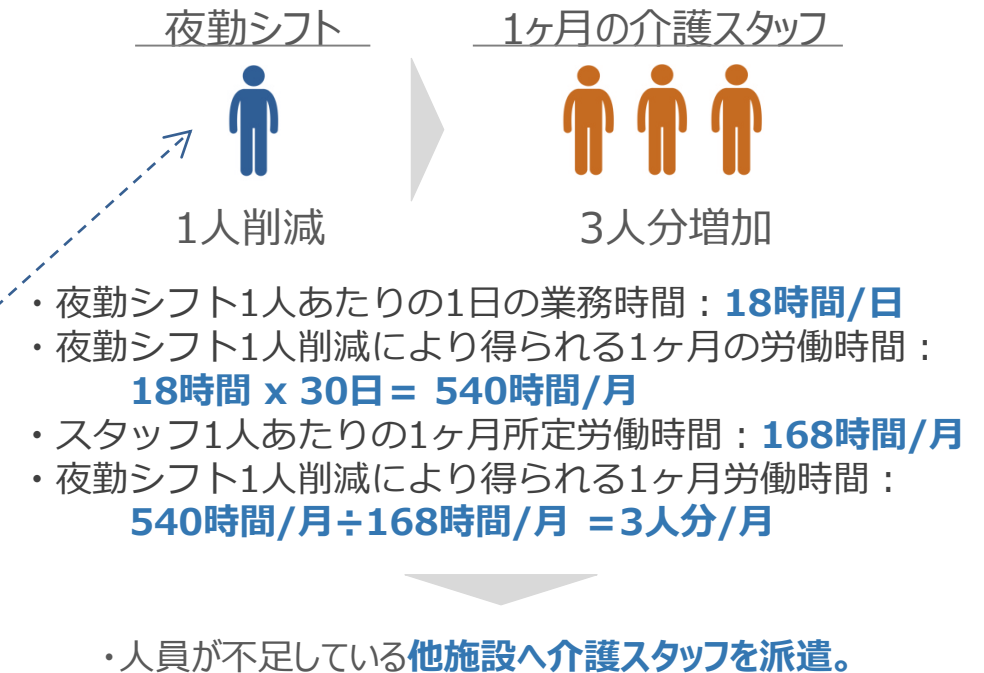
夜勤シフト削減による生産性Up

- ① 「映像を見て駆け付け」運用により**訪室業務が削減**（導入前：マットセンサを使用）
- ② 「映像通知」により**異なるフロアへの駆け付けが可能**となった（導入前：各フロアに貼り付き）
- ③ スマホでその場でのケア記録入力ができ**移動時間が削減**（導入前：都度移動し記録入力）
- ④ 都度スマホで情報連携でき、**情報共有時間が削減**（導入前：ステーションで口頭にて情報共有）

①夜勤シフトのスタッフ人員を1名削減



②新たなスタッフ労働力3人分を確保



【施設概要】 ・入居者数：57名 ・フロア数：3フロア



ご清聴ありがとうございました



KONICA MINOLTA

Giving Shape to Ideas